

令和2年9月30日

鈴木委員

私からも、三つの大きな観点から聞かせていただきます。

第1点ですが、おかげさまで3年間かかりましたが、3年前に提言した一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会の設立をしていただいて、先日は看板掛け式に出させていただきます。

その中で、第1点、県立スポーツセンターグリーンハウスの中につくってくださり、私も当日、関東学院大学の名誉教授である鈴木秀雄さんが、今回障がい者スポーツ協会の会長になってくださったということで、時間がなくあまり詳細が聞けなかったのですが、実際に、このグリーンハウス、とてもいいところを取ってくださったのですが、その理由と、もう一つ、賃料はどれくらいですか。

スポーツ課長

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会の事務所は、県立スポーツセンターで実施する各種障害者スポーツ事業と障がい者スポーツ協会や、その会員である県内の障害スポーツ団体がスポーツセンターを会場として大会やイベントを開催する場合の利便性を考慮して、スポーツセンターの敷地内にあるグリーンハウスの中に置くこととしました。また、スポーツセンターの年間の使用料ですが、約14万6,000円、規定により5割の減免となっています。

鈴木委員

その中で、一つ考えたことですが、今回、障害者スポーツという形で、わざわざきちんとしたカテゴリーをつくっていただいた中で、令和2年3月にたしか設立をしてくださったと思うのだが、3月から、私がこの前、看板掛け式にお邪魔した9月でしたか、この間に実際の加盟がどれくらい増えているのかということと、個人と競技団体とあると思うのですが、具体的にはどういう状況なのか教えてください。

スポーツ課長

一般社団法人神奈川県障がい者スポーツ協会は、今御指摘のように、今年3月に協会の運営を担う役員2名を社員として選任し設立されたところです。現在、設立後の最初の社員総会に向け会員を募っているところであり、正会員は現在16団体から入会申請が上がっていると伺っています。また、協会の活動趣旨に賛同して援助する目的で個人及び団体に入会いただく賛助会員については、今後リーフレット等を作成して募集していく予定と伺っています。

鈴木委員

賛助会員は今いないのか。

スポーツ課長

賛助会員については、これから募集を開始するところです。

鈴木委員

私は、県立スポーツセンターの中を見せていただいた中で、今後とても考えたほうがいいと思ったことが2点あって、第1点は、このスポーツセンターの

中で、今までは当然ボッチャなどいろいろ障害者スポーツを行っていると思うのだが、そのときに、車椅子バスケットボールのものに乗せていただいた、子供用のバスケットの車椅子だったのですが、こういう体験をすれば、どれほどすごいものなのかということが健常者の方に分かっていたら社会をつくらなければいけないと思ったのです。第1点としては、今お話した、今後、障害者と健常者の方々を統一した形での大会や、行事をどのようにもっていくのかと考えているか、お聞きします。

スポーツ課長

今、御指摘ありましたように、各種の障害者スポーツを体験していただくことは本当に重要なことだと考えています。今後、県立スポーツセンターで障害者スポーツを体験できる仕組みについて現在検討しているところです。また、様々なイベントの中で、健常者の方も含めて障害者スポーツを体験していただける仕組みを今構築していますので、今後このような取組を推進していきたいと思えます。

鈴木委員

二つ目は、あの中において、つくづく思ったのですが、とても近代的な格好いいスポーツセンターですね。私が褒めるのも、珍しいのですが、すばらしいところです。ところが、今回の予算を見ていると、消毒液を置く、シールドを置くとか、とてもマニュアルチックなことばかり書いてあるのですが、私は、いっそ県立スポーツセンターは、これだけ、黒岩知事だって、さがみロボット産業特区と言っているのだから、先行会派の方も言っていたが、あれだけ近代的なものをつくっておいて、受付に、何かとても悲しそうなシールドが上からかかっていた。女性が3人ぐらいいて、みんなマニュアルで体温も測っていて、なおかつ消毒液も自分でしなくてはいけない、全然そぐわないと思った中で、やはり、あの中で、もう少しロボットを活用した、例えば、Pepperをあそこに置いておいて、あれだけいろいろな部屋がたくさんあるから、あの中でどこに何があるか分からない人がたくさんいると思う。わざわざマニュアルで聞かなくても、タッチレスの社会であるならば、そこで一つPepperを置いておくだけでも全然方向性は違うと思えます。第1段階として、タッチレス社会のスポーツというもの、当然、コロナ禍のスポーツというものの中でもって、ロボットを活用して、スポーツセンターの中の全国一、またハイテクなスポーツセンターにしていきたいと思いますと思えますが、いかがですか。

スポーツ局長

県立スポーツセンターは、私どもから見ても非常に立派な施設で、委員が言われるように、いろいろ新型コロナウイルス感染症予防についても、本当に旧態依然とした手法を一生懸命工夫しながら行っています。今、受付の亚克力板の話もありましたが、今回補正予算でいろいろお願いする前に、いろいろ行わなければいけなかったものですから、あれは、スポーツセンターの職員の手作りで、百円均一のショップのもので結構作ったりしてます。

いずれにしても、さがみロボット産業特区の中に位置しており、周辺にもいろいろな先端企業、研究機関、慶應大学もあります。そうしたところと、いろいろ情報交換しながら、あその県立スポーツセンターというフィールドで、

民間の技術力で何を行っていただけるのか、その辺りは私どもも勉強していきたいと思っています。

鈴木委員

特に私は、先ほどから消毒、消毒と言われるが、具体的にどこかでデモンストラレーションで、例えば、消毒用ロボットなど貸してくださると思う。それを、産業労働局が行うより先に、スポーツ局として、あれだけ立派な県立スポーツセンターで、来た人たちが驚くような技術革新をひとつ行っていただきたいと思いますので、第1点、これをよろしくお願いします。

二つ目は、先ほどの先行会派の方も質問されていて、重なるかもしれないが、今回、この指定管理の受託事業を見ていて、このようなことを行っているのかと思って、私も久しぶりに見せていただきました。報告資料の20ページ、21ページに委託実績と書いてあり、この中で、私はとても驚いているのですが、例えば、先ほど言っていた県立山岳スポーツセンターは、たったの指定管理料が933万9,000円ぐらいで、よく受ける。だって、常識で考えても、とても安くないか、年間933万9,000円ですよ。他の施設見てみると、9,300万円や3,700万円などいっぱい書いてある。山岳スポーツセンターの職員は1人だけで、933万9,000円なのか。

スポーツ振興担当部長

これの積算は、秦野戸川公園と一緒に人件費等を計上していますので、実際、県立山岳スポーツセンターの常勤1名、それ以外の方々については、非常勤や秦野戸川公園から応援で賄っています。

鈴木委員

だから、県は、このようなホームページをつくっているのですよ。神奈川県立山岳スポーツセンターと開いてみて、このホームページで人が来るか。ここで私が見ていて、利用料金が601万4,000円と書いてある。これは、今、コロナ禍で、令和元年度はしようがない、先ほどもスポーツ課長が答弁していたが、少なくとも今年はしようがないと思う。冬場だって開けることは多分できないのだよね、冬場も何らかの形で開いているのか。

スポーツ振興担当部長

県立山岳スポーツセンターは、通年で開いています。

鈴木委員

この県立山岳スポーツセンターのホームページを見ていて、県らしいと私は思ったのだ。山岳スポーツについて、正直言って、一般県民の方々からすると、山岳とは、山を登るというイメージを持つ。いざ開いてみたら、先ほど言っていた、クライミングとボルダリングということであるが、クライミングとボルダリングは何が違うのか。

スポーツ振興担当部長

クライミングの中の1種目にボルダリングがあります。

鈴木委員

そうであるならば、クライミングと書いてあるから、グーグルで引っ張っても、山岳スポーツセンターはどこもひっかからないのだ。ボルダリングとしてみてもひっかからないのだ。だから、この一つ見てみても、私からすれば、山

岳スポーツセンターは常勤1人で何をしろと言っているのだと。日々、それこそ数人ぐらいしかいないということでしょう、賃料は、ここの中に出てきている利用料金が、幾らか知らないで、私は聞いているのだよ。だけど、常識で考えても、日々ごく僅かな人しか来ない、来ないが、見てみると、クライミングの中に、クライミングだけボルダリングに似たようなものがあったならば、人は見方が全然違うだろう、そうしたら、この利用料金そのもの自体を上げてあげなければ、それは指定管理者が一生懸命やることなのか。県として何らかの方向性を出さなければ、だから、毎回、私が、常任委員会で言うのだ。

神奈川県に指定管理制度を入れたものだから、県はマネジメントばかり行っているのだ。このようなもの出していて、具体的な運営を考えるのは企業だ。来年度はどうするというのは企業だ。例えば、指定管理料にしても、利用料金にしたって、一つも変わらない。ということは、基本的には同じリピーターなのだ。新しい人をどれだけ取り込んだのかという発想があるのか、このところを見て私はとても心配したわけです。案の定、ホームページを見てみたら、ぺらっと1枚の中に、クライミングについての詳しい、今、スポーツ振興担当部長はさっと答えたから大したものだ。だが、一般の人にクライミングとボルダリングの違いを聞いても、きっと分からない。そういうことからまず行って、こんなものがありますというものを紹介しないで、県立山岳スポーツセンターなどとばかり書いていたら、私からすれば具体的なことは分からないだろうというのだ。だから、あなた方はいつも工夫がない。だから、いつまでたっても、利用料金だって変わらないではないか。上がったのは指定管理の中で見たことない、いつかこれ提言しようと思っているが、いつも同じ。私は、スポーツ振興担当部長が今答えてくださったかもしれないが、まずはホームページも含めて、きちんとした集客をする姿勢をしっかりと検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

スポーツ振興担当部長

利用の見直しについては、今回、秦野市の施設と一緒に、近くに新東名高速道路のインターチェンジができるので、そういったものを併せて、利用拡大に向けてホームページの手直しも含め、取り組んでいきたいと思っております。

鈴木委員

二つ目は、本当におかしいと思うのですが、そもそも、このもの自体、ボルダリングや、クライミングということで引っ張ったら、観光かながわNOWには載っていないではないか。今、かながわ再発見とあって、同じ常任委員会の所管だろう、それなのに、何で観光かながわNOWに入っていないのか。それで、利用者が少ない、片や何か分からないかながわ再発見を行っている。こういう縦割り行政の典型が、ここに出ていると思っているのだ。もう少し、県民の税金使っているのだから、本当に大変な中で税金を納めてくださった方の、1,000円を本当に払えない人も私は見えています、私たち、こういう冷房が効いた中で何億円という話をしているが、一庶民の方々の、1,000円を払うお金が大変尊いのだ。そうであるならば、行政は、前にも私は本会議場で言ったが、金を稼ぐように体質を変えろ、いつまでも人様の税金で行う時代から、県がこのように稼ぎましたという時代をつくらない限り変わらない。それが新型コロナウイルス

ス感染症のこのことで、もう間もなく変わり始めている。もう一度、この中で検討をしっかりと、今言ったこの公園の近くで、東名高速道路もあったので、私も、この近くの二人の市長ともお話しした、そういう意味では、新しい名所としてお願いします。

三つ目は、先ほどからずっとスポーツ課長の答弁を聞いていると、今スポーツ業界は大変だから、国も助成金がある、県も助成金出しましょう、だけど、もっと大変なのは、個人競技なのだ。要するに、どんなにこういうものをいただいても、例えば、ボクシング、これは開催したくても、ファイトマネー、後楽園ホールで行っても、500人ぐらいの中だから、実際には200人ぐらいしか集められない、もう収益にならないです。そういう中で、新しいスポーツを神奈川県から発信してもらいたい。このような言い方は変ですが、今、サッカーにもロトがありますよね。ただ、あれは、国会ではバスケットボールに広げるという話もあった。途中で廃案になって消えてしまったようだが、そういうところに、ある意味で、あのようなくじというだけではないのですが、主催者に何々を支援するということから、県民がそういうところに、例えば、先ほどから出てきている、テレビ、インターネット等々を通じた形での観戦というものの新しい時代の視聴者の応援の仕方のようなものをぜひとも提言してもらいたいと思っています。ちょうど、令和2年9月28日の読売新聞に、IT活用や新型コロナウイルスの感染対策補助へというのを、当然もう御覧になったと思いますが、この中で、私がおもしろいと思ったのは、主催者の収益確保を後押しする考えだと書いてあるのです。こういう発想は今までない。収益確保ではなく、試合ができますよという支援はあっても、収益を確保して盛り上げてあげようという視点は、なかなか私はないと思っているわけ。そういう中で、私も一つ二つ持っているが、ここでは言わないけれども、このスポーツ局から、この中にも出てきているARやVRを使ったこういう新しい形で、例えば、選手にカメラ目線でもってプレーしているところをつくるということがここで出ているのだが、そういう中から出ていった、新しいテレビとはまた違った形での観戦、それに対して賛同するような、そういう一つのシステムをつくっていかなければいけないと思いますが、感想を聞かせてください。

スポーツ局副局長

今お話のありましたいろいろなスポーツ、こういうコロナ禍の中で、いろいろなスポーツを応援していく仕組みをつくっていかなければいけないと思っています。また、民間においても、今のお話も含めて、いろいろな仕組みができていますので、コンテンツを持っている、そして施設を持っている県として、そうした民間とどういうタイアップをした上で、スポーツの団体、イベントの興行者、選手をどうしたら後押しすることができるか、今のお話を踏まえた上で、しっかりと検討していきたいと考えています。

鈴木委員

スポーツ局副局長から答弁いただいて、また近いうち私も提言したいと思いますが、これは本当に大事な大事な問題で、どことなく世論みたいなものが、この何千人を許容しますみたいなものに次々いつているが、では、1対1で何かを争うスポーツ団体、団体に入っていないスポーツの方、またプロもい

る、こういう方たちが、今本当に苦勞されているのです。何か、マスコミに載らない、話題が載らないのだが、現場の中で本当に苦勞されている主催者はいっぱいいて、これをみんなで、県民で、そうだったのか、応援してあげようという仕組みを、私はぜひともつくってあげないと、本当に一議員として、こういう方々の声を届けて形にしなくてはいけないとつくづく決意をしているところなのです。今、スポーツ局副局長から前向きの答弁もいただいたので、どうかまた、今後も、県のスポーツをしっかりと応援する形での支援を心よりお願いして、質問を終わります。